

まちづくりに女性の視点と経営感覚を

市民派「ゆ」党！ 議会改革！ 市民自治！

- 議会基本条例が年内に制定される予定
- 地域分権を目指して、地域割りの整理を

公約1「ストップ ムダ使い！」

- 東光スポーツ公園の見直し（裏面を参照）
- 役職加算の受け取り拒否
（平成18年から毎期末手当で供託。現在1,165,008円 議員退職後に市に寄付します）
- 行政委員報酬の見直し（秋の報酬審議会に日額化を諮る）
- 市立病院改革（基準外繰り出し金の抑制 2786万円、約20%の減）
- 再任用の適正活用を求めた（再任用より若年層の雇用を！）

公約2「アッフ 市民サービス！」

- 高齢者福祉「安心カード配布」
救急時に役立つ病歴や連絡先などの医療情報カードを一人暮らしの高齢者宅に設置
- 青少年の健全育成
若年層へのDV防止予防リフレットを上川管内の全ての高等教育機関で配布
- 自殺防止
自殺予防啓発リフレットを市民こうほうに挟んで全戸配布

公約3「ジャンプ 元気経済！」

- 中小企業振興基本条例が年度内に制定される予定
- 都市マスタープランの見直し（コンパクトシティを目指す）
- 公契約の在り方をチェック
- 農業センター改革
（花ゆり事業の失敗から、事前の市場調査の必要性を追求）（裏面を参照）
（都市と農村交流は、農業センターの事業から農業者への後方支援へ）
- 東海大学旭川キャンパス閉校
- 観光資源としての彫刻のまちづくり
（新駅舎に彫刻美術館のサテライト・北のガーデンにも配置予定）

1年間でこんなにたくさんの公約を実現しました！

議員活動報告

2009・9～2010・8

では、昨年のピールパーティ以後の1年間の議会活動報告をさせていただきます。早いもので2期目も残すところあと半年となり、来年はもう改選となります。そこで、今回は、前回の選挙の時に市民の皆さまにお約束した公約がどの程度実現できたかという観点から、活動を整理してみました。封筒の中にA4の裏表の用紙がありますので、ご覧いただけますか。

私は、「まちづくりに女性の視点と経営感覚を」取り入れることで「ストップ、ムダ使い」「アップ、市民サービス」「ジャンプ、げんき経済」を皆さまにお約束いたしました。

「女性の視点をまちづくりに活かす」とは、政策の優先順位を女性の視点で捉えなおすことでこれまで優先順位の低かった政策を実現していくということですが、昨年のピールパーティからの1年間で、

公約2「アップ！市民サービス」では

- 1、「安心カード」の開始
- 2、デートDV予防啓発リフレット
- 3、「自殺予防啓発チラシ」の全戸配布

が議会質疑を通して実現できたことは、たいへんうれしく思っています。

「安心カード」の説明～～9月から

「デートDV予防啓発リフレット」説明

しかし、これだけなら他の女性議員と大差ないのかもしれませんが、しかし、私の議員活動のもう一つの特徴は、経営感覚で市政をチェックできるということだと私は自負しています。

なぜなら、小さな店ですが焼鳥屋を経営し、中小企業家同友会の活動を通して、多くの経営者の方々から、経営やまちづくりに関するたくさんの貴重なご意見を伺うことができるからです。

行政を経営感覚でチェックするということはどういうことかと言うと、効率の良い行政運営、要するに無駄をなくし、費用対効果を考え、最小の費用で最大の効果を生むような仕事の仕方をしているのかどうか、そして、そういう仕事ができる組織になっているのかどうかをチェックすることです。

加えて、このまちの経済振興における行政の果たすべき役割についてチェックすることです。

そういう視点での取り組みとして、

公約1「ストップ！ ムダ使い」では、

「行政委員の報酬の日額化」

「市立病院への一般会計からの基準外繰り出し金の削減」

「再任用より若年層の雇用促進」などがあり、どれも市の職員にとっては耳の痛い指摘ばかりですが、私は職員に嫌われることを覚悟で質疑してます。

なぜなら、1期目から、「まず隗より始めよ」ということで、「役職加算の受け取り拒否」という形で、私自身「ムダ使い」をストップしているからです。

「役職加算」という言葉をはじめてお聞きになる方もいらっしゃると思いますので、少し説明しますが、役職加算とは、バブルの時に民間企業との賃金の差を埋め合わせるために、役職に応じてボーナスに上乘せした手当です、主査以上の職員と議員がもらっています。

バブルが終わり、公務員給与の方が民間をはるかに上回っている旭川市において、この制度は必要ですか？私は、職員の手当を廃止するためには、まず議員が廃止すべきと議会で主張しましたが受け入れられなかったので、供託することにしました。その供託金は、になりました。議員を辞める時には市に寄付します。

議員の役職加算の総額は、1、575万円

職員の総額は、2億7千万円

合計、約3億円にもなります。

バブルが終わった今、これは必要ない！と私は思います。必要のないことはやめる、これがムダをなくすということです、みなさん、そう思いませんか？

他の議員さんたちは、自分たちの報酬が下げられるのを嫌がって、私に取り上げる報酬や採用のことに触れたがりません。火の粉がわが身に飛んでくるのが嫌だからです。私は自ら受け取りを拒否しているからこそ、市に対してもきついことが言えると思っています。

公約3「ジャンプ！げんき経済」では、中小企業家同友会、商工会議所、商工会、青年会議所と連携して、市内の中小企業の活性化による市内経済の振興によって自立した地域経済を作るための法的バックボーンとしての「中小企業振興基本条例」の制定を目指して活動を進め、来年3月には条例を制定できる見込みとなりました。

また、真の農業支援になるための農業センター改革や彫刻を観光資源と考え、彫刻のまち旭川をアピールすることなどに取り組んできました。

この間、いちばん達成感があったのは、東光スポーツ公園の縮小です。（裏面）

* 1期目で後期計画の見直し

* 2期目で、西川市長の指示による市民無視の見直し案の提示

* 市民意見の反映をすべきと質疑

（市民アンケート・検討委員会での議論・スポーツ団体からの意見の聴取）

* 市民要望に沿った見直しに

（野球場はこれ以上必要なし・冬場も使える屋根つきの体育館・柔道など試合が出来る施設・屋内テニスコート・災害時の物資センターと共用）

* 大幅な削減 45億円も削減！

市民の意見をしっかり聞き、市民との協働で作業すると、時間はかかるが、結果として、市民満足度が高く、その上コストも削減できるようになる＝これこそが市民自治です。

私が議員になろうと思った理由の一つは、市民自治によるまちづくりをしなければ、これからの時代は乗り切れないという危機感からです。

そして、市民自治とは、議会が市民にとって身近なものになり、本当の意味で議員が市民の代表になり、市民の意見がまちづくりに反映することで、使える財源は少なくなるけれど、市民が納得できるまちづくりを進めていくということです。そのためには、議会が密室で行われているのではなく、市民に開かれた議会でなければならぬと強く感じていました。

だからこそ、2元代表制の主旨にのっとって、市長にとって野党でも与党でもない、いつでも市民の目線に立って是々非々で判断する議員として、ゆ党の立場を貫いてきました。また、公開性ということでは、1期目から議員報酬と政務調査費の全面公開を実施し、議会報告を行い、ニュースレターを発行し、2期目からは、市民と共にまちづくりについて意見交換する「クボアツまちづくり学習会」を開催してきました。

1期目は、思うように政策が実現できず、ドン・キホーテのような気持ちになって落ち込むこともありましたが、2期目になると、先程1年間で実現できたことをご報告させていただきましたが、自分でもびっくりするぐらい、主張が通るといふか政策が実現しています。

議会改革も、もうすぐ「議会基本条例」が制定され、大きく前進します。「ゆ党を貫く」「公開性を高める」「役職加算の受け取りを拒否する」など、自分が出来ることを地道にしかし粘り強くおこなうことで、最初は針の穴程度でもいつかはダムを決壊させることができるという強い確信を持てるようになりました。

まだまだやりたいことやらなければならないことが沢山あります。せめてあと1期、私久保あつこに議員としてのお仕事をさせてください。議員としての仕事をするためには、何はともあれ、まずは来年の選挙で当選しなければなりません。

皆さまのお力で次期選挙も無事に乗り越えられますよう、これからも、ぜひ私久保あつこに熱いご支援をいただけますよう、心からお願い申しあげまして、活動報告を終わらせていただきます。

どうぞ、よろしくお願いいたします。